

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名（園名等）

ベネッセ雑司が谷保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定の理由>

日常にありふれている「色」を子ども達はどのように理解し、感じているのか？「色」を通して様々な表現活動を行う中で、色の知識を深め、「色」の繋がりから興味関心を広げていく。

## 2. 活動スケジュール

2025年9月～2026年2月

## 3. 探究活動の実践

<活動の内容>

### ○色水遊び

用意したもの：赤、青、黄色の色水、試験管、スポイト、プラコップ

色の混ざり合いを楽しむ中で、色水の量によって同じ混ぜ合わせでも色の違いがあり「これは〇〇色」などそれぞれのお気に入りの色を見つけ名前をつけていた。

その中で普通の水をコップに組み保育者が「この色は何色？」と聞いてみると、「水色」「白」「透明」などと同じ水でもそれぞれのが自分の色の感じ方を伝えた。

それぞれの色の感じ方や色の興味を、製作や構成遊びへ発展していけるよう環境を設定していった。

### ○製作遊び

用意したもの：カラーセロハン、画用紙、折り紙、ペン、色鉛筆、クレヨン、ライト、クリアファイル、アルミホイル

室内の電気に当ててみたりカラーセロファンを通し色がついた周囲の様子を見たりすることを楽しむ。

カラーセロファンにライトを当てて見るとキラキラと光ることや、紙に絵を描いて光を当てると裏に絵が浮かび上がることを発見する。

色の濃さで光り方が変化するのか？と疑問を持ち様々な素材で試す。

### ○構成・玩具遊び

用意したもの：積み木(木・クリスタル)、ライト、懐中電灯、人形、LaQ

製作遊びで試す中、積み木ではどうなるのか？と疑問を持ち試してみる。

壁に影はできるものの、木とクリスタルの素材の違いで光の通し方が違うことを発見する。また、光を通す中でもクリスタル積み木の色の違いによって、壁に映る色の濃さが違うことに気づく。(色の濃さや明るさ)

クリスタルLaQでも天井や壁に反射させながら、赤と青のLaQを組み合わせると紫の色が壁に映るという色の混ざり合いから、色づくりに発展する。

玩具と自身で製作したものを組み合わせ、お城を作る。

### ○ステンドグラスのお店の見学

※活動を積み重ねていく中、サークルタイムを設定し遊びの発見を共有できる時間を作っていった。

## <活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり>

色水遊びを行う中で、色の混ざり合いや変化していく様子を楽しみ、同じ色の混ざり合いでも比べてみると色の濃さなどが異なり、その違いに興味を持ちながらお気に入りの色を作り出していた。水も「水色」「白」「透明」と子どもによって異なる感じ方やそれぞれの表現の違いに面白さを感じ、普段子どもたちが自由に楽しんでいる製作や構成遊びでも色の興味を広げていけるよう環境を整えていった。

カラーセロハンや画用紙などの素材に加え、ライトも子どもたちが手に取れるところに用意しておく、カラーセロハンを通してみる周囲の環境は色がついて見えることを発見し、そこからカラーセロハンにライトを当て壁や床に色が映ることに気づく。それに加え絵を描いた紙に光を当てて裏に絵が浮かび上がることも発見する。

その発見から色の濃さで光り方や映り方が変化するか試す姿が見られた。

暗い中では強く光るんじゃないかという考えのもと、黒や紫など色の濃いもので試してみる。光が通らなかつた姿を見て、保育者が「絵を描いた白い紙は映ったのに、黒や紫はどうしてダメなんだろう?」と問いかけると「色が濃いとダメなんだよ」と自分なりの考えと保育者や友だちに伝える姿が見られた。

その言葉を聞き、他に光を通すものは何だろう?と、室内にあるものに光を当てながら調べ始める。

構成コーナーにある積み木に光を当ててみると、壁に影ができることを発見する。

それと同時にクリスタル積み木では、影ができるだけでなく光を通しキラキラ光ることや、色によって壁に色が映るものがあるという発見も楽しんでいた。(黄色など薄いものはあまり映らないが、赤やオレンジなど色が濃いものが映りやすい)

また、保育者が木の壁と白い壁両方で試すように環境を設定してみると、白い壁には色が映ることに気づく。

LaQでも試してみる姿が見られ、青と赤を重ねて光を当てて紫の色が壁に映るという色の混ざり合いから、色づくりにも発展していった。

様々な実験を繰り返していく中で、実験で得た発見をみんなに発表したいという声が聞かれた。

サークルタイムを行い発表の時間を作ると、「紙も積み木も同じ木からできているのに、何で光を通すものと通さないものがあるの?」という疑問が生まれる。子ども達と一緒に考えていく中で、「ガラスや透明なものは光を通す」「薄いものは光を通す」という考えが聞かれた。そういった考えから、紙類だけでなくクリアファイルも素材に加える。

光への興味からスタンドグラスのお店の見学を活動に取り入れ、見学した年長児が年下児に伝えたり部屋に写真を貼ったりする中で、クリアファイルやアルミホイルを活用しながらスタンドグラス作りも楽しむ。

実験や製作を繰り返し楽しむ中で、「光るお城が作りたい」と作り始める。影や光、色の映り方を見ながら積み木や製作物、人形などを組み合わせ、今までの発見や学びを共有し合いながら、イメージやアイデア溢れるお城が完成する。

### ・色水遊びで色づくり



### ・カラーセロファンで 光に色が付くことを発見する



### ・壁に影が浮かび上がり遊びが、より一層 広がりました

・他に光るものはないかな？と玩具探しを行いLaQに注目



・ステンドグラスの見学を経てステンドグラス作りにも挑戦



・どうやったら綺麗に映るかな？と光の当て方も工夫しました



・お城づくりのスタート。  
窓にはステンドグラスを付けたら綺麗な模様になるかもしれないと、子ども達なりの工夫をたくさん詰め込んで

## 4. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

・色水遊びという一つの活動から、色の混ざり合いや濃淡の違いに気づき色を生み出そうとする姿には、探究心と創造性が豊かに育っていることが感じられた。同じ「水」でも「水色」「白」「透明」と感じ方や表現が異なることから、一人ひとりの見方や感じ方を大切にすることの重要性にも気づかされた。

・遊びの環境を整えていくことで、子どもたちは自ら発見し、試行錯誤を繰り返しながら考えを深めていった。保育者の問いかけによりさらに探究が広がっていく様子から、「問いを投げかけながら、共に考える」という関わりの大切さを実感した。

・素材や壁の違いによる映り方の変化、色を重ねることで生まれる新しい色など、実験を重ねる中で得た気づきを友だちと共有しようとする姿からは、学びが個から集団へと広がっていく力も感じられた。友だちの考えを聞きながらさらに試してみることで、学びはより深まり、遊びが発展していった。

・今回の遊びを通し、「遊びの中にこそ学びの芽がある」ということを改めて強く感じた。

子どもが興味を抱き、主体的な遊びや探究を促す環境構成の大切さ、そして一人ひとりの気づきや表現を丁寧に拾い上げていくことや遊びに繋げていく重要性を学んだ。今後も子どもたちの興味・関心や疑問を起点として、一人ひとりの「どうして？」を大切にしながら、遊びがより深まる環境とかかわりを大切にしていきたい。